

(様式7-2)

会派政務調査活動・先進地調査等 精算書

令和7年7月14日

三田市議会議長 福田 秀章 様

本会派(私)は、会派政務調査活動・先進地調査に要した費用の精算結果を下記のとおり報告します。

会 派 名	市民とともに	代 表 者	
		議 員 名	山 崎 丈
派 遣 者 氏 名	山 崎 丈		
視 察 先	① ジビエ処理施設 新田哲也氏自宅 丹波篠山市大上219 ② 兵庫県丹波篠山市役所 丹波篠山市北新町41		
調 査 事 項 (調査目的)	① ジビエ食肉加工施設とジビエ販売を営んでいる方からジビエの捕獲を始め、流通等を調査することで三田市での課題解決の糸口を探る。 ② 波篠山市の AI デマンド交通等の取組について		
日 時	令和7年7月3日(木) 10時~午後3時30分		
支 払 金 内 訳	科 目	支 出 額	摘 要
	宿 泊 料		
	日 当		
	鉄 道 賃 (モ/レール)		
	航 空 賃		
	バ ス 賃		
	船 賃	/	
	レ ン タ カ ー	2, 2 7 4	レンタカー代 $8,525 \div 4 = 2131$ 円 燃料費 $570 \div 4 = 143$ 円 /
	そ の 他	1 4, 8 8 4	手土産 $2,268 \times 2$ か所 $\div 4 = 1,134$ 円 / 加工施設視察費用 $55,000 \div 4 = 13,750$ 円 /
合 計	1 7, 1 5 8		
備 考			

※100 km未満の距離における特急利用、タクシー利用の理由は備考欄に記入。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和7年 7月14日

三田市議会議長 福田 秀章 様

本会派(私)は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民とともに	代表者	
		議員名	山 崎 丈
派遣者氏名	肥後淳三、山崎丈、橋本維文、大西憲司		
視察先及び 調査事項 (調査目的)	① ジビエ処理施設 新田哲也氏自宅 丹波篠山市大上219 ジビエ食肉加工施設とジビエ販売を営んでいる方から ジビエの捕獲を始め、流通等を調査することで三田市 での課題解決の糸口を探る。 ② 兵庫県丹波篠山市役所 丹波篠山市北新町41 丹波篠山市のAI デマンド交通等の取組について		
日 時	令和7年7月3日(木) 10時～午後3時30分		
視察先対応者	① 丹波篠山市役所 カーリマン	議会事務局 書記 農都創造部 部長 農都創造部 専門員 代表	岡崎 賢二様 押田 健一様 京極 暁 様 新田 哲也様
	② 丹波篠山市議会 丹波篠山市役所	副議長 企画総務部 次長 企画総務部 係長	向井 千尋様 藤田 尚位様 竹内一真 様
(調査結果の概要及び所見) 別紙でも可			
・ 視察資料は、山崎の報告書でご参照ください。 ・ 調査結果及び所見は、別紙1, 2に添付しています。			

① ジビエ食肉加工施設「カーリマン」現地視察

(1) 丹波篠山市における野生動物被害対策状況

平成22年 約2270万円 → 令和5年 約1221万円

サルの被害が減ったが、シカの被害は年平均500万円。

市猟友会委託→鳥獣被害対策実施隊（講習免除、税の軽減、経費補助あり）

報償費 隊員1人あたり 1万3000円(年間)

日当(猟銃) 4800円/日

捕獲報償費 猟銃シカ 1万7500円

箱なわ 2万円

捕食したシカの食肉利用促進

※有害鳥獣捕獲報償費のための証拠確認を食肉加工施設が実施

(ジビエの利用促進と実施隊員の負担軽減)

三田市一頭当たりの有害鳥獣捕獲処分報償金 3000 円の補助は少ないと感じた。

(2) カーリマン

新田 哲也さんは、9年前に「地域おこし協力隊」として丹波篠山市に移住。

年間 4000 頭を加工施設で処理する。

猟師さん 61 名の依頼を受けて、シカを取りに行く。

箱なわ 5 万円の肉になる、くくりなわ 5 千円の肉になる

焼却費 3 万円 内臓は動物園に行く場合もある

いい肉 ホテル(ポートピアホテル特別室用の朝食)、ソーセージなど

それ以外 ペットフード

※猟師さんの依頼を断らない。全て取りに行く。

※地権者に迷惑をかけない。

※イノシシには手を出さない。(既に産業として成り立っている)

施設を作っただけでは、この事業は成り立たない。猟師を育成しただけでも、食肉加工産業までは成長しない。猟師がめんどくさいと思っている、・申請書類を書く・シカの後始末などを最後まで面倒を見てくれる人(カーリマン代表のような方)が大切だということが分かった。



ホテル朝食用シカ肉



販売用シカ肉



施設前での説明

② AI オンデマンドバスの概要について

- ・コミュニティバス（令和7年秋に休止）からデマンドバスへ
- ・昔は、路線バスが走っていた（JRバスなど）地域だった。
- ・「交通空白」を解消する目的



デマンドバス導入

・使用車両	ワンボックスバス 2台（定員 8名）、タクシー1台（定員 4名）
・運行事業者	ウイング神姫（バス） 日本交通（タクシー）
・予約方法	電話、アプリ、LINE
・運賃	200円、500円
・運行時間	8：00～16：00

路線バスの補完的存在

路線バスの営業の迷惑にならないようにする。

「交通空白」解消緊急対策事業

公共ライドシェア、AI デマンド、乗合タクシー

令和6年 … 4000万円（導入）      デジタル交付金 1/2

令和7年 … 5700万円                      交付金 2/3

ランニングコスト 1500～2000万円/台×3台

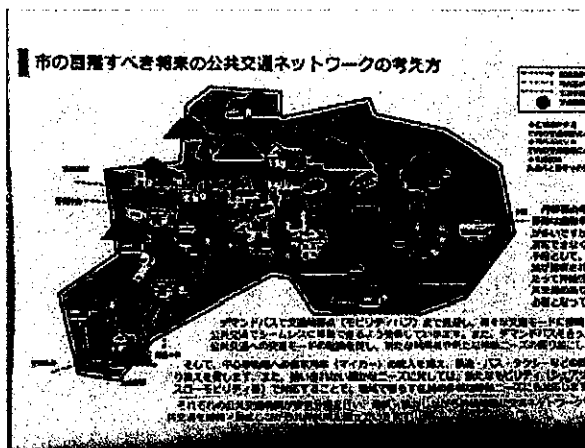
利用者は高齢者が多い。65%が電話予約。アプリやLINE予約は、使用者の子や孫が予約を取っている。システム使用料にお金がかかる。

三田の場合、「あいのり1号」（広野地区北部）、「お互いさまの介」（小野地区）、「チョイソコさんだ」（広野地区北部・本庄地区）、相乗りタクシー（志手原地区）がある。地域の特徴を活かした支援策が必要になってくる。

路線バスの場合、“クロスセクター効果”が指標となって、路線廃止になってきたが、乗合タクシーの場合も、どうなれば廃止になるのか市民に提示する必要がある。いくら三田市から補助が出ているのか、住民が乗らなければなくなる事実など、情報公開を進めることによって、公共交通を守る施策の必要性を改めて感じた。



オンデマンドバス



公共交通ネットワークの考え方